

ザ・タイガース、高校で中国語教師…

北京で新曲作り

【北京＝関泰晴】グループサウンズ時代の人気バンド「ザ・タイガース」の元ドラマー、人見豊(芸名・瞳みのる)さん(64)が芸能界引退後に勤めていた高校の教員を辞め、北京に拠点を構えて「第三の人生」を歩み始めた。これまでの人生を振り返る自伝を2月下旬に出版。元中国語教師の知識と経験も生かし、日中両国語による新曲づくりに取り組む。人見さんは「人生に定年はない。今後は様々なことに挑戦したい」と張り切っている。



北京の自宅でドラムの練習に打ち込む元ザ・タイガースの人見さん＝関泰晴撮影

第三の人生「様々なこと挑戦」

活に嫌気が差し、71年1月に日本人初の武道館単独公演となる解散コンサートを終えると、芸能界や仲間と連絡を絶ち、定時制高校に復学した。

人見さんは京都の定時制高校時代に沢田研二さんら仲間とバンドを結成。東京に移って1967年2月にデビュー曲「僕のマリー」を発表し、「君だけに愛を」などのヒット曲を連発した。「ピー」の愛称で親しまれたものの、アイドル生

「漢字を使うので親しみを感じた」と中国語に興味を持ち、慶応大で中国文学を専攻。同大学院修了後に慶応高校の教員となり、北京に81、83年に留学するなどして中国語を磨いた。芸能人の過去は封印し、中国語の入門書を著すなどして



ザ・タイガース時代の人見さん

仕事に打ち込んだ。定年が2年後に迫る昨春、「余力を残して最後に好きなことに打ち込みたい」と退職。「実は10年前から退職後の道を探していた」といい、おでん屋を上海で開業しようと下見したこともあったという。

結局、「第二の故郷」と思い入れもある北京を拠点に選び、アパートを借りた。北京での生活は3月で1年となり、日中両国の流行歌を翻訳する作業に没頭し、毎日1時間以上のドラム練習を続けている。かつての仲間との距離が縮まったのは2008年。テレビで沢田さんが歌う「ロング・グッバイ」を聞き、再会を願う思いが込められていると感じた。同年末に東京・渋谷の居酒屋で38年ぶりに沢田さんらと再会し、「タイガースの再結成があれば、ぜひ参加したい」と思うようになった。日中両国語で歌う「老虎再来(タイガースが帰ってきた)」という新曲も準備している。

人見さんは「久しぶりに旧友に会った時、『ピーはタイガースの元メンバーの中では保存状態が極めて良いね』と変な褒め方をされたこともある。この年になつてようやく進むべき道が見えてきた気がする」と意気盛んだ。